

# 酔いどれ 取材メモ

謹賀新年。7カ月しかない令和元年を急

ぎ足で駆け抜け、またまた新年を迎えた。どーも、酒好き事件記者の酒匂徳利です。秋の味覚に年末年始の酒浸り。毎年この時期は何かと理由をつけて酒を愉しめる、1年で一番嬉しい季節だ。だが、いくら美味いからといって、飲みすぎではいけない。肝臓も悲鳴を上げるが、周りの善良な市民の悲鳴を招くこともあるからだ。元年は、ラグビーW杯にハロウィンとバカ騒ぎする機会があったが、果たしてどうだったのか。徳利の徳さん<sup>さかわけ</sup>は酒に負けて迷惑をかける奴らを見逃せない。それが愛する酒への恩返しだと思っから。

悲願のベスト8入りを果たし、大いに盛り上がったラグビーW杯。泊まり夜勤のシフトなどお構いなしで、徳さんもテレビにくぎ付けになっていた。4年前と違い、南ア戦では力を封じ込められ、日本のラグビーをさせてもらえなかったが、ノースアイドで感じたなんとも清々しい気分、とても感動したな。

だが、そんな気持ちを一気に吹き飛ばすヨッパライによる事件が、W杯の裏で起きていた。まずは日本人による愚行だ。お里が知れるというか、地金が出るというか、民度の低さを全世界に晒したようなお粗末な事件が起きた。

10月9日、ウェールズとフィジーの対戦が行われた大分スポーツ公園総合競技場。その競技場内喫煙所近くで、30代の2人の男が酒に酔ってズボンを下げ、チン○を衆人に晒し、公然わいせつ容疑で現行犯逮捕された。2人は出雲児童相談所の非常勤嘱託職員だが、こいつらの頭は児童以下に違いない。

10月13日、日本がスコットランドの猛攻を凌ぎ、見事ベスト8入りを決めた試合が開催された横浜国際総合競技場。試合後の夜10時すぎ、大手広告会社の局長（51歳）が、警備のアルバイトをしていた20代の大学生の男性を平手打ちしたという。所轄署によれば、試合観戦後に局長は、競技場のゲートの柵に体当たりし、アルバイト男性に注意を受けたことに腹を立てて手を挙げたという。当然、局長は酒に酔っていた。不起訴にはなつたが、分別のないイタい大人である。

世界中から観客が集まるラグビーW杯。マヌケな酔客は日本人ばかりとは言えない。旅の恥は掻き捨てなのか、国民性なのか、酒に酔った外国人は手に負えない。

9月29日午前1時40分ごろ、静岡・浜松市の飲食店でアイルランドの26歳の男が面識のない日本人男性2人と、前日の日本戦を巡っ

てケンカになり、男性2人に暴行を加えて現行犯逮捕。

また、先に記したご開チン事件は、日本人によるものばかりではなかった。

5日にオーストラリア対ウルグアイ戦が行われた、前出・大分の競技場で、オーストラリア勝利の美酒に酔い、同国籍の24歳の男がイチモツを露出させ、コート内を走り回り逮捕された。残りの全試合の入場が禁止されたのは言うまでもない。

10月11日、W杯観戦のために来日していた英国籍の会社員（32歳）は、午前4時半ごろ、新宿歌舞伎町のマンション2階のベランダに侵入した疑い。その30分前に近隣の洋品店で「外国人が店内で暴れている」と110番通報があり、駆け付けた警察官がこの「害人」を取り押さえた。

日本代表の活躍で列島を感動させてくれた一大イベントの裏では、こんな酒がらみの事件が起きていたのだ。

W杯後に警戒していたのはハロウィンだ。ケルト系住民による伝統文化などまったく理解せず、ただ仮装して酒に酔うだけの空虚なイベントによって渋谷が占拠され、これまで暴徒化した若者らが多くの事件を引き起こした。18年、スクランブル交差点で横転させられた軽トラの映像が昨日のように思い出される。その事件では、外国人を含む15人を特定、4人が逮捕されたという。

ここ数年過激化するこのイベントでは、事件はもちろんだが、散乱するビンや缶、路上の迷惑行為は尽きず、渋谷区では駅周辺の店舗に酒類販売自粛を求める条例「渋谷駅周辺地域の安全な環境の確保に関する条例」を令和元年6月に施行し、ハロウィン期間中は酒の販売を自粛した。だが、渋谷区の職員によればそれでも路上で飲酒して注意を促した者は240人ほどいたと言う。しかし、条例がある程度奏功し、昨年のような酒

による暴徒が現れなかったのは何よりだ。2つのイベント以外でも、大学教授やテレビ局幹部、税務署職員、元県議に医者、地位のある人物が酒絡みで逮捕された事案が多くみられたが、特に印象的だったのが、6年前に長崎の居酒屋で無銭飲食した土木作業員の男が時効1年前（詐欺罪11時効7年）に逮捕された件だ。防犯カメラの映像や店に残された唾液から犯人を特定、高原署の執念の逮捕劇だった。

